

義貞海神に祈るの凶に題す（篠崎小竹）

寶劍一投潮水乾　　鯨鯢就戮中興年  
龍神他日猶堪恨　　不覆獼猴西上船

寶劍　　ひと　　たび　　とう　　ちようすい　　かわく  
一たび　　投じて　　潮水　　乾く

解説　新田義貞が鎌倉の北条高時を伐った時、稲村が崎に来て、  
たまたま満潮で進むことが出来ず、そこで黄金の大刀を海中に投じ  
て祈誓すると、潮がたちまち引いて、首尾よく鎌倉に進撃して高時  
を滅ぼすことが出来たという。事は『太平記』に見える。その凶に  
題した詩である。

鯨鯢　　りく　　つ　　ちゆうこう　　とし  
戮に　　就く　　中興の　　年

龍神　　たじつ　　なお　　うら　　た  
龍神　　他日　　猶　　恨むに　　堪えたり

語釈　※宝劍一投＝黄金の大刀を投じる。※鯨鯢＝鯨は雄鯨、鯢は  
雌鯢。※戮＝殺すこと。殺戮。※中興＝建武の中興。※龍神＝水の神。  
※獼猴＝大猿。凶悪なものに例える。ここでは足利尊氏をさす。  
※西上船＝西九州から都へ攻め上る尊氏の軍船をいう。

覆さず　　びこう　　せいじょう　　ふね  
覆さず　　獼猴　　西上の　　船

通釈　義貞が軍を進めて稲村が崎に至り、一たび黄金の大刀を投じ  
て龍神に祈願すると、潮水たちまち乾き、ただちに鎌倉に攻め込ん  
で北条高時を伐ち滅ぼし、建武の中興はこの年に成った。これは至  
誠が龍神に通じた結果であるが、私は後日の龍神に対して甚だ遺憾  
に思うことがある、それは尊氏が九州から十万の軍勢をのせて都に  
攻め上る、その船をどうして転覆させなかつたかということである